



発行所
公益社団法人 国民文化研究会
(九州←東京←全国)
東京都渋谷区東1-13-1-402
振替 00170-1-60507
電話 03-5468-6230
FAX 03-5468-1470
http://www.kokubunken.or.jp/
E-mail: info@kokubunken.or.jp
月刊「国民同胞」編集部
毎月一回10日発行
購読料 年間2000円

「成長のアジア」を支へた日本

― 渡辺利夫先生のご著書を読んで ―

久米秀俊

かつて新興工業国 (Newly Industrializing Countries, NICs) と呼ばれた韓国、台湾に加えて中国は、今や世界の産業経済を支へてゐる。シンガポール、タイなどの東南アジア諸国連合 (ASEAN) の諸国も著しい高度経済成長を遂げてゐる。世界中が新型コロナウイルスに見舞はれてゐる現在、これらの国々は、欧米諸国に比べて上手く対処が出来てゐる (中国はちょっと問題ありだが)。

開発経済学をご専門とされる渡辺利夫先生 (拓殖大学の前総長、学事顧問) は、ご著書『成長のアジア 停滞のアジア』(講談社学術文庫) の中で、政治的混乱や貧困からの克服に向けて工業化を進めるアジア諸国の取組みの跡を丹念に辿られてゐる。国内の需要に対応した工業生産 (国内消費向け) の段階から、諸外国の需要に対応した工業生産 (高度技術製品輸出) の段階に進む過程を明快に

論述されてゐる。そして、これらアジア諸国が経済発展を遂げてきたのは、「労働者の技術水準、企業家の経営努力、官僚の行政能力、政策の立案と施行の能力、つまりは後発性利益を内部化するための社会的能力が、ここに豊富に形成されていたからである」と指摘されてゐる。

先進国からの技術や資金の支援、民間投資を活かせる開発途上国の「後発性利益」を「内部化」するための「社会的能力」が、途上国に「豊富に形成」されてゐたとの指摘には、はっとさせられた。

開発途上国の発展については、貧困者の救済、各種インフラの整備、民間投資の促進などの外からの支援が注目されがちであるが、先生はアジア諸国の長年にわたる自立の営みに眼差しを注がれて、その自立の動きを重視されてゐたからである。先生は、これら国々の「変化をも

たらしたのは近隣アジア諸国の工業化努力であるが、しかし同時に彼らの輸出競争力の強化に果たした日本の役割もまた大きい」とされてゐる。「日本の役割」とは、直接には第二次世界大戦後、日本の公的資金や民間資金が韓国や台湾の各種インフラ整備や産業開発に提供されたことであるが、先生はそれだけではなくこれら国々へのもっと長期的な日本の貢献について記されてゐる。

明治の日本には西欧からの外圧に処するために近代技術を導入にして国造りに努めたといふ経験がある。その経験を活かした韓国、台湾、ASEAN 諸国への日本の支援についても言及されてゐる。

また、ご著書『新脱亜論』(文春文庫) では、台湾について以下のやうに記されてゐる。

日本の技術を直ぐ伝えるのではなく、まづ台湾の土地、林野、人口などを詳細に調べて、台湾に相応しい制度、技術を考案した。そして、当時の台湾総督府の後藤新平民生長官が中心になって、例へば亜熱帯の台湾を悩ませてきた不衛生と疫病への対策として、予防接種の義務化、我が国に先んじての鉄筋コンクリート製の上下水道の整備、台湾医学校 (現台湾大学医学部) の創設などを行った。

これらの成果は、いま世界で際

立ってゐる台湾の新型コロナウイルス対策からも窺はれるのではなからうか。

私は、現在カンボジアで唯一の大規模コンテナ船が接岸可能なシハヌークビル港 (SHV港) の整備運営を担ふシハヌークビル港湾公社 (SCG) の運営に関つてゐる。SHV港は、国全体の輸出入コンテナ貨物量の六割以上を取り扱つてをり、カンボジアのゲートウェイとして国の産業経済を物流面から支へてゐる。

このSHV港が果してゐる役割は、一九九〇年代から約三十年間にわたり、PASのアドバイザーとして同港の整備課題に取り組んできた多くの先輩たちの地道な活動の成果であると思つてゐる。人材育成および技術導入に取り組む日本の支援は欧米諸国のもとの違ふ。ましてや自国企業の利益拡大のみを図るやうな中国の支援とも大きく異なつてゐる。

今後とも、わが国の先駆者たちがアジア諸国の国造りに果たした役割の跡を辿りつつ、SHV港の施設整備の強化および運営能力の向上に向けた日本らしい「自立支援」に努めたいと思つてゐる。

五月開催の予定が延期となつて十一月に開催される国民文化講座では、渡辺利夫先生が登壇される (本号八頁参照)。読者の皆様のご参加を期待してゐる。(一般社団法人日本港運協会)